

## 関西経済界と関西広域連合の意見交換会

日時：平成29年1月26日（木）

午後0時15分～午後2時40分

場所：大阪府立国際会議場12階特別会議場

開会 午後0時15分

事務局長（中塚則男） それでは、皆様おそろいですので、ただいまから関西経済界の皆様と関西広域連合との意見交換会を開催させていただきたいと存じます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます関西広域連合本部事務局長の中塚と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、ご出席の皆様をご紹介すべきではございますが、時間の都合上、お手元の配席表をもって、ご紹介にかえさせていただきたいと存じます。なお、本日は、プレスオープンで実施しておりますので、ご了承願います。

それでは、初めに関西広域連合長よりご挨拶を申し上げます。井戸連合長、よろしくお願ひします。

広域連合長（井戸敏三） 意見交換会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まだ1月ですので、改めまして「新年明けましておめでとう」を申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。酉年は荒れる年だと言われておりますので、今年はどんな事態が起きてもしたたかに対応する年に是非していきたい、このように願っているものでございます。

さて、皆様には本当に大変ご多用中の中、この意見交換会にご出席いただきましてありがとうございます。平成24年からこの交換会をさせていただいております。そのような意味で、幅広い意見交換ができることを心から期待をいたしております。

関西広域連合は平成22年12月1日に設立されてから6年を経過し、7年目に入って

おります。これまで関西全体の広域行政を担う責任主体として、カウンターパート方式による東日本大震災の支援やドクターヘリの共同運航など、1つの自治体では対応できない府県域を超える広域課題に積極的に取り組み、一定の成果を上げてまいりました。今後も関西が一丸となって取り組んでいく必要がある、その役割を果たすべく努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げる次第でございます。

昨年、この意見交換会でも話題に上がりましたが、訪日外国人観光客誘致の推進母体として、経済界、自治体、観光推進団体などにより、関西国際観光推進本部を平成28年3月に設立いたしました。官民が一体となって広域観光周遊ルート「美の伝説」や昨年10月から「KANSAI Free Wi-Fi (Official)」の運用開始などに取り組んでおりますが、訪日外国人観光客の呼び込み強化に向けて、さらに官民が連携することが必要でございますので、この4月からは、関西観光本部を設立して対応するということになっております。さらなる努力を、インバウンドを含めた観光拠点としての関西の位置づけ確立を目指して努力をしてまいります。

昨年この場におきまして、政府省庁の関西の移転に関する要請を官民挙げて行うということで、皆様のご賛同もいただきました。政府機関の移転につきましては、文化庁の京都への全面移転、消費者庁の徳島での消費者行政新未来創造オフィスの設置、総務省統計局の和歌山での統計データ利活用センターの設置など、昨年閣議決定されています。これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、引き続き東京一極集中の是正と、地方創生に向けて、関西の力の結集にご協力いただきますよう、お願いいたします。

今後3年間の方向性を定める法定計画であります第3期広域計画の策定を進めております。また、関西創生戦略の改定作業にも取り組んでいます。関西の将来像、国土の総合構造を実現し、分権社会を先導する関西。個性や強みを生かして人の還流を生み出し、地域全体が発展する関西、アジアのハブ機能を担う新首都関西を目指して、7つの広域事務、構成団体の連携・協働による政策の企画調整や、分権型社会の実現

への取組を今後とも展開していきます。

次期広域計画におきましては、女性の活躍する場の拡大に向けた取り組みを記載しています。労働力人口が減少する中で、とりわけ関西地域は全国に比べ女性の労働力率もM字カーブの谷が深い。40歳代以降の回復の幅も全国に比べて低いという実情にあります。このため女性の就業機会、活躍する場の拡大を図り、女性の潜在的な力を十分に発揮できる関西を目指して、経済界と協働して取組を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

続きまして、我が国の防災・減災におけるリダンダンシーを確保して、首都直下型地震や、当面する南海トラフ地震などの大規模広域災害にも、迅速かつ的確に対応する必要があります。このためには関西と東京に拠点を置いて、2つの拠点が相互補完する体制を構築することが必要なのではないのでしょうか。関西広域連合では、かねてより防災庁の創設を提案してきました。具体的内容を検討するために、昨年7月から有識者懇話会を設置して、年度内に報告を取りまとめ、実現性の高い提案を行ってまいりたいと考えております。国への働きかけ等につきましてご理解、ご協力をお願いいたします。

国土の総合型・多極型構造の構築により、関西が日本の成長を牽引する必要があります。また、首都機能をバックアップする担い手となるためのインフラ整備は不可欠です。北陸新幹線の敦賀以西の整備や、リニア中央新幹線の大阪乗り入れの早期実現、空港・港湾とこれらを連絡する高速道路や主要都市間等を連絡する高規格幹線道路等のミッシングリンクの解消など、国への積極的な働きかけを行ってきました。また、3空港それぞれの強みを活かした最適活用を目指すとともに、関西圏域の空港として効率的な活用を図っていくなど、今後も官民が一体となった取組を進めてまいりますので、よろしくご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成27年7月に設立しました健康医療分野での関西における産学官連携のプラットフォーム、関西健康医療創生会議では5つの分科会で調査を進めておりますが、シンポ

ジウムやフォーラムの開催を行って、その経過を報告させていただいております。今後とも健康長寿を達成するための新たな産業を創造し、安心・健康に生活できる持続性のあるまちづくりを進めるため十分な連携を図り、産学官連携の取組を進めてまいります。

関西ワールドマスタースゲームズ2021につきましては、昨年10月に競技種目、開催地を決定することができました。今年4月には第9回大会でありますニュージーランドのオークランドで大会が開催され、いよいよ私たちの大会も4年後となりました。今後、大会の知名度の向上や具体的な大会運営の確立など、多くの課題に取り組んでいくこととなります。生涯スポーツを通じた地域振興という観点からも、大きなインパクトを持つこの大会を成功に導いていくためには、関西全体が協力して一致団結した推進が必要です。今後とも官民挙げての盛り上がりを加速していけるように、よろしく願いいたします。

関西ワールドマスタースゲームズ2021のほか、ラグビーワールドカップ2019や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと、3年続くゴールデンスポーツイヤーズを見据えた観光誘客や、2025年日本万国博覧会の大坂関西への誘致など、ビッグイベントが連続しております。より一層官民連携を図りながら、戦略的な取組を進めていきたい、このように決意をいたしております。

関西は一つひとつという多様性を生かしながら、関西は一つという理念のもと、双眼構造の一極を担うための取組を一丸となって進め、活力ある関西を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は限られた時間ですが、積極的な意見交換ができることを期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局長（中塚則男）　引き続きまして、関西経済連合会、森会長様のご挨拶を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

関西経済連合会会長（森　詳介）　関西経済連合会の森でございます。本日は、

井戸広域連合長を初め、知事、市長の皆様方には、関西経済界、我々このように懇談の機会を賜りまして、誠にありがとうございます。心からお礼申し上げます。また、日頃から我々の活動に大変ご理解いただき、またご支援いただいていることを、重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

先ほど、井戸連合長からもお話がございました、今、広域連合でまとめておられます第3期広域計画の最終案を拝見させていただきましたが、それぞれの分野の事業がさらに深掘りされ、かつ事業分野間の連携も明記されていることを大変心強く思いましたし、また万博の誘致につきましても積極姿勢を明記していただいたことを大変嬉しく思っております。6年前に広域連合が設立されて以来、府県をまたぐ広域連合という、前例のない試みにも関わらず、本当に着実に成果を積み上げておられるということ、その役割を年々拡大されておられることに、心から敬意を表したいと思えます。

また、第3期広域計画の最終案を拝見させていただき、関西経済界と関西広域連合のベクトルが一致しているということも改めて実感いたしました。官と民と違いこそありましても、私たちの関係は共同体と言ってもいいところまでレベルアップしていると感じております。先ほどの井戸連合長のご挨拶にもありましたけども、計画案でも随所に経済界との連携を明記させていただき、意識していただいておりますが、このように官民が広域でがっちりと手を携えているということは、関西の大きな強みだと思えます。関西経済界は、これからも官民の連携を強く意識した活動を展開してまいりたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

関西経済界と広域連合との意見交換会は今回10回目ということになります。官民がこのように一堂に集まりまして広域の課題を議論して、オール関西の意思や戦略を共有するという点で、この意見交換会は関西にとりましても非常に重要な位置づけになっていると思っております。4年前のこの交換会の結果、特区の事務局を官民共同で設置することになりました。今それがPMDA関西支部の誘致などの成果につながっておりますし、また3年前の意見交換会の議論は、先ほども井戸連合長からも話があ

りました関西国際観光推進本部の設立のきっかけになっております。そのほかにもこの意見交換会から多くの官民連携事業が始まって、その実績を積み上げていると思っております。

本日は、各団体から関西広域連合に対して意見提起させていただきます。それぞれの地域の実情を踏まえまして、広域観光やスポーツ振興など、多岐にわたる項目を提起させていただきますが、いずれも関西の将来にとりまして重要なものばかりだと思っております。本日が過去の例と同様に、関西の官民連携に新たなステージを開ける契機となりますよう、建設的な議論をさせていただきたいと思っております。

また、先ほど井戸連合長からご指摘いただきました女性の活躍推進につきましては、関西経済界としても非常に重要なことだと思っております。関経連では女性の活躍推進のために、女性社員向けのリーダーシップ向上セミナー、また男性管理職向けのセミナーなどの活動をしております。ただ、関西におきましては、女性の就業率は全国に比べて非常に低いレベルにあると言われておりますので、こうした活動をさらに加速する必要もあると思っております。女性の活躍促進には就業継続とかキャリアアップの支援など、様々なアプローチが必要でありますけれども、今後はこうした取り組みを官民が一体となって進めていきたいと考えておりますので、本日はこのような点につきましても議論を深めさせていただければと思っております。

最後になりますが、この交換会がお互いにとりまして有意義なものになることを願っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

本日、お手元に関西広域連合側から提供しました資料のほかに、経済団体ほか関係の団体の皆様からいただいた資料を添付しております。本来ならば個別にご説明すべきですけれども、なるべく多くの時間を意見交換に割きたいと存じますので、個別の説明は割愛させていただきます。

それでは、ただいまより意見交換に入りたいと存じます。進め方としまして、最初

に各経済界様からご発言をいただき、全てのご発言を頂戴した後に広域連合側からそのご意見、要望等に対する回答も含めた発言をさせていただきたいと存じます。その後、時間が許す限り自由な意見交換の場としていただければと考えております。なお、お一人様、できましたら3分ないし5分程度を目安にご発言、恐縮ですけれども念頭に置いていただければと存じます。

それでは、私から順にご指名させていただきます。最初に、大阪商工会議所、倉持副会頭、よろしくお願いいたします。

大阪商工会議所副会頭（倉持治夫）　大阪商工会議所の倉持でございます。よろしくお願いいたします。私からは、関西の共通目標である成長力強化について申し上げたいと思います。

まず、先ほど井戸連合長からもお話がございましたが、万博誘致については2020年の東京オリンピック・パラリンピック以降の我が国の成長を牽引するビッグプロジェクトであり、日本全体にとって大変意義深いものであると考えております。まずは、先ほどお話もありましたように、誘致競争に勝つことが先決でございますが、そのために国内外での盛り上がりが重要。とりわけ関西全域での機運醸成が不可欠と考えておりますので、各自治体、経済団体におかれましては、格別のご協力を賜るようお願い申し上げます。

2つ目は、関西の成長を担うインフラである北陸新幹線の早期大阪延伸についてです。京都までのルートが決定しましたが、延伸の実現が30年後の2046年では余りにも遅過ぎるとというのが共通の思いではないかと思っております。大阪商工会議所としましても、一日も早い大阪延伸に向けて、北陸、関西の7つの商工会議所で構成する北陸関西連携会議を設置し、観光やビジネス交流を図っておりますが、取組を進める中で、北陸の皆様方からも大阪まで繋いでこそ意味があるとの声を聞いており、早期全線開通の必要性を改めて実感しているところでございます。整備新幹線の先行プロジェクトがあることは重々承知しておりますが、万博開催などを<sup>てこ</sup>てこに早期開業を実現するため、

関西の行政、経済界を挙げて政府与党に働きかけていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

せっかくの機会でございますので、お手元に資料5をお配りしております。私ども大阪商工会議所では、昨年12月に、関西を元気にする新しい中期計画「たんと繁盛大阪アクション」を取りまとめ、17年度から3年間かけて取り組んでまいります。今回のアクションに盛り込んだ我々が目指すべき都市像は大きく2つございます。1つは、アジアと直接深く繋がり、アジアとともに成長していくイノベーションハブ、いま一つは日本全体の成長を牽引する最有力の極の1つ、その両面から首都圏でもなく一地方でもない、一定の集積を持った拠点都市の成長モデルを探していきたいと考えております。たんと繁盛というネーミングには、「国内外から様々な人や企業が集まり、関西を舞台にビジネスで大いに繁盛してもらおう、関西自体も大いに繁盛する」という思いを込めてございます。

その実現に向け、1つ目はライフサイエンスやスポーツ産業の振興などウエルネスの加速、2つ目は観光消費や対内投資拡大を図るインバウンド増進、3つ目はものづくりのオープンイノベーションを支援するマーケット創出、という3つの戦略フィールドからなる総計60の事業に注力してまいります。

我々の目指す方向性は、概ね同じだと思っておりますので、各自治体、経済団体におかれましては、ぜひ一層の連携・協力関係の強化をお願い申し上げます。私からの発言とさせていただきます。よろしく申し上げます。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

それでは、次に京都商工会議所、立石会頭、よろしく申し上げます。

京都商工会議所会頭（立石義雄）      京都商工会議所の立石でございます。

私からは2点。1点目は文化による関西創生に向けまして、京都に移転する文化庁との連携強化、2点目は、今年4月に設立が予定されております関西観光本部の実効性ある運営について申し上げたいと思っております。

京都商工会議所では、昨年11月に今後3年間の指針となります京商ビジョンNEXTを策定いたしました。ビジョンでは「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に掲げ、2年後の竣工を目指して整備を進めております京都経済センター（仮称）を創造的な知恵の連携的拠点として整備するとともに、センターの機能と協働しながら地域の特性や企業独自の強みを活かした知恵ビジネスを多様な産業群として集積させ、知恵産業の森を形成することを目指しております。今年の4月には文化庁の先行移転組織として、地域文化創生本部が京都に設置され、文化財を活用したいわゆる広域文化、観光の振興をはじめ、新たな文化行政のモデルとなる先進的な事業が実施されます。そうした動きを踏まえまして、ビジョンでは重点項目の1つとして、融合をイメージした「文化×産業の創造」、そして「文化・観光都市の推進」を掲げており、京都の強みである文化力に裏打ちされた伝統産業の新たな振興、そして文化財を生かした観光振興など幅広い分野で文化庁と連携して取り組みたいと考えています。

本年3月の改定に向けた議論が進む関西創生戦略では、新たに地域文化創生本部との連携をはじめ、文化庁の全面的な移転をオール関西で支援する方針が盛り込まれております。関西から文化の力で日本を元気にするため、関西の行政、経済界、文化・観光団体などが連携しまして、文化を生かした広域的な事業を具体的に実行していただきたいと思っております。

本年4月に設立されます関西観光本部は、文化事業と国際観光事業とのマッチングを図る司令塔としての役割が期待されております。昨年度もこの意見交換会で関西国際観光推進本部への注文として申し上げましたが、改めてその運営やプロジェクトを効果的にコーディネートしていく旗振り役と仕組みづくり、そして本部への権限と予算の集中、さらに商工会議所が参画する意義と取り組むべき役割の明確化、この3点をお願い申し上げて、京都からの発言とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

続きまして、神戸商工会議所、家次会頭、よろしくお願いいたします。

神戸商工会議所会頭（家次 恒） 神戸商工会議所の家次でございます。関西広域連合の皆様におかれましては、関西経済の底上げに向けて、日ごろより精力的に取り組んでいただいていることに感謝を申し上げます。

昨年1年間を振り返りますと、懸案事項でありました大阪湾岸道路の西伸部、淀川左岸線延伸部、それぞれ事業化が決定したということで、関西の道路ネットワーク整備が前進したことは、大変喜ばしいことであります。まだミッシングリンクは残っておりますので、そのあたりを精力的にすることも大事だと思っています。

今、そのような中で、先ほど連合長のご指摘がありました、双眼型のメガリージョンをどう形成するかというのが最重点課題だと思っています。関西は日本の国土の中で、まさに西の中心でございます。これからの日本を考えた上で一極集中というのは、いろんな意味で問題があり、特に地政学的にも非常に問題があると思っています。

中央省庁の地方移転については、先ほど立石会頭もおっしゃっていましたように、京都への文化庁の移転はかなり進みましたが、それ以外のところは、掛け声は結構あるけれども、なかなかうまくいっていないのが現状だと思います。確かに徳島や和歌山の決定もありますが、連合長も指摘されましたように、関西、特に我々の兵庫、神戸は22年前の阪神・淡路大震災があり、色々な意味で防災についての経験あるいはノウハウを蓄積しているところがあります。特に最近、天災が非常に多いという状況も鑑みますと、首都圏のバックアップとして関西でも防災庁の設置というのが非常に大事だと思っています。まさに国の安全保障に関わる大きな問題であり、改めて地元官民挙げて、国に強く訴えていく必要があると考えております。

もう一つは、先ほどもありました、健康・医療分野での関西のアドバンテージでございます。関西はご承知のように大阪の道修町があり、それから健康・医療に強いアカデミアが集積しています。京都はiPS細胞もありますし、大阪も今、健康・医療にフォーカスされている。私ども神戸は医療産業都市で、もう10数年ずっとやってき

て、スーパーコンピューター等のファシリティも充実しているところであります。

そのような中で、現在、関西健康医療創生会議の枠組みにおいて、アカデミアに結集していただいて、これからの医療ビッグデータの二次活用だとか、遠隔医療などのテーマに従った検討が進められておるところでございます。そういう意味では、サイエンスも含めて医療は非常に関西では進んでいる。特に先端医療分野でどうブレークスルーするかというのは、ある意味ではグローバルにも大事な目的でございますけれども、健康・医療に関わる自治体や病院、それからアカデミア、産業界がスクラムを組むということが何よりも大事であり、またオープンイノベーションでいかにそれを早く実現するかということが重要です。これらが集積した関西のアドバンテージを発揮することが、大いに期待されるところでございます。

いずれにいたしましても、第2の東京、ミニ東京ということではなくて、関西のオリジナリティをどう磨き上げていくか、そのためにも関西広域連合を介して引き続き経済界との緊密な連携と積極的活動をお願いしたいと存じます。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございます。

それでは、続きまして堺商工会議所、前田会頭、よろしく申し上げます。

堺商工会議所会頭（前田寛司）      堺商工会議所の前田でございます。発言の機会を賜りましてありがとうございます。

私からは2点お願い申し上げたいと思います。昨年もこの場で申し上げさせていただきましたが、堺市では今、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を目指しております。昨年は惜しくも国内推薦を得ることができませんでしたが、平成31年度の登録を目標に、今年こそ国内推薦を勝ち取るため、市民、経済界、行政が一体となって、さらなる情報発信、機運醸成に努めております。課題解決に取り組んでまいり所存でございますので、引き続き関西広域連合のお力添えをいただきたく、また登録実現後も、様々な連携へのご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年3月に官民連携の関西国際観光推進本部が設立され、関西をアピールす

る様々なリーディングプロジェクトが展開されるなど、豊富な観光資源が集中する関西の世界的な観光地としての飛躍が期待されております。関西へのさらなる誘客のためには、多様化する旅行者のニーズに即した観光を提供する、いわゆるニューツーリズムといった体験型観光に対応できる、個性的で多様な魅力ある受け入れ環境の整備を行う必要があると考えております。

私どもの堺は、世界のトップであります自転車部品メーカーを初め、自転車関連産業が地場産業の中で重要な位置を占めております。日本で唯一の自転車博物館が所在する自転車のまちとして、自転車を活かしたまちづくりが進められております。環境負荷が非常に少なく、手軽で身近な乗り物であること、この自転車を関西の観光にもっと活かすことはできないかと考えております。例えば、奈良、京都、和歌山の世界文化遺産と世界的に価値のある歴史資産や自然環境資源を巡るサイクリングルートを設け、定期的にイベントを開催するなど、自転車観光を推奨することで、訪れる全ての人々が、その地域の豊富な観光資源の魅力を存分に味わっていただくことができ、関西の千客万来の観光圏域として、国内外に広くPRできるものと考えております。

2点目は、関空新幹線についてであります。昨年末の報道によりますと、首都圏と北陸地方とのアクセスを飛躍的に向上させる等、顕著な開業効果をもたらしている北陸新幹線の福井県敦賀以西については、小浜 京都ルートで事実上決着をいたしました。今後は一日も早い着工がなされることを、関西一丸となって国に対して要望していかなければならないと考えております。加えて与党プロジェクトチームで議論されたようではありますが、関西国際空港の一層の利便性の向上を図るためには、大阪都心部と関空を繋ぐ関空新幹線が是非とも実現されるべきだと考えております。海外から我が国を訪れる外国旅行者は増加傾向にあり、2015年の訪日外国人客数は1,974万人で、3年連続で過去最高となっております。特に関西では関西国際空港への外国人入国者数が国際線就航便数の増加等を背景に、全国を上回るペースで増加しております。この傾向は2019年ラグビーワールドカップ、2020年オリンピック・パラリンピック

ク、2021年ワールドマスターズゲームズに向け、一層伸びていくものと思われます。

しかしながら、このような好調さは反作用として同時に空港と都心部のアクセスのさらなる向上を図る必要性を生み出します。この課題の解決には、関西のゲートウェイである関西国際空港を国土軸と直結する関空新幹線の実現が不可欠であると考えております。関空新幹線が実現いたしますと、大量かつ迅速にインバウンド需要を取り込めるだけでなく、首都圏の有事の際に関西のバックアップ機能のさらなる強化に加え、リダンダンシーの観点からも、第2国土軸の形成に資するものと認識しております。皆様におかれましても、東京一極集中の是正や国内外における関西の相対的地位の向上のため、関空新幹線の実現に向けてオール関西で連携して取り組んでいただくよう強くお願いいたします。

私からの発言とさせていただきます。どうもありがとうございます。

事務局長（中塚則男） ありがとうございます。

続きまして、関西経済同友会、蔭山代表幹事、よろしく申し上げます。

関西経済同友会代表幹事（蔭山秀一） 関西経済同友会の蔭山です。私からは2点、お話しさせていただきたいと思います。

まず、同友会の広域連携についてであります。現在、この関西広域連合との意見交換会には、同友会として私どもの関西経済同友会だけが参加させていただいておりますけれども、広域連合を構成する各府県には8つの経済同友会があります。このうち京都経済同友会、神戸経済同友会、そして私ども関西経済同友会の3つの同友会は、昨年来、定例的に意見交換しているのですが、実は今期からそれを拡大し、2府4県の同友会と会合をすることに決めております。このほかにも徳島を初めとした四国4県の同友会とも定例会合を開催しておりまして、各地同友会との広域連携や情報共有に注力しているところであります。

と申しますのは、皆さんおわかりになると思いますけれども、これから関西で開かれる19年から21年のスポーツイベント、とりわけ関西ワールドマスターズゲームズ

2021や、万博、I R、広域インフラ等については、当然、各地域と情報共有しておかなければならない話だと思っております。各府県の同友会がその意義を共有して、行政の方々と一緒に活動していくということが、各イベント・プロジェクトの成功に向けて、より効果的だと思います。関経連さんとか商工会議所さんとメンバーは大体似ていると言えば似ているのですが、ただ若干違う、非常にユニークな経営者もたくさん参加されていますので、是非とも色々な機会に各地の同友会にお声がけいただき、活動に参加させていただければと思います。

2点目は、強力な観光拠点の形成についてです。いわゆる「I R」でございます。昨年12月に国会で推進法案が可決されました。I Rは検討すべき課題も大変多いと十分認識しておりますけれども、私ども同友会としては、かねてからI Rの大阪・夢洲への誘致を推進しております。I Rは単に「カジノ」と訳されることがありますが、我々が目指すI Rはそれだけではなくて、1万人規模の国際会議ができ、10万平米以上の展示場を有する大型のM I C E施設と、そして世界にここしかないというようなアミューズメント施設も有すると。このような施設を合わせ持つのがI Rであります。I Rは従来とは違った客層を関西に呼び込めると思っております。いわゆる負の側面への対応というのは、当然必須ですけれども、I Rは関西にとって強力な集客施設であって、私ども関西のゲートウェイとしての役割も期待しているところであります。

さらに夢洲は、2025年に誘致を目指す万博の用地でもあります。1,400万人以上の集客を誇るユニバーサルスタジオジャパンも非常に近くにあり、この大阪ベイエリアは、関西の一大集客拠点になるポテンシャルがあると信じております。

一方で、現在好調な関西へのインバウンドを定着させるためには、観光客の関西全体への展開が必須であります。先ほどから話題に出ております広域インフラが整備されますと、例えば湾岸線が神戸ポートアイランドまで開通しますと、神戸空港の利便性が抜群に上がりますし、淀川左岸線が第2京阪に通りますと、大阪の空港線というところの渋滞が緩和されて、伊丹空港へのアクセスがすごく便利になります。北陸

新幹線やリニア中央新幹線が通りますと、北陸や東京は大阪から日帰り圏になります。こういう広域インフラができたときに、先ほど申しました大阪ベイエリアに一大観光拠点があることで、広域インフラの効果をより一層活かせるのではないかと考えております。そのようにご理解いただきまして、単にカジノで儲けたらたらいいとか、万博に行ってわっとやったらいいとか、そのようなことを言っているわけではありませぬので、是非ともご理解をいただき、ご協力をお願いしたいと思います。

以上です。

事務局長（中塚則男）　　ありがとうございました。

それでは次に、滋賀県商工会議所連合会、北村理事、よろしく申し上げます。

滋賀県商工会議所連合会理事（北村嘉英）　　滋賀県商工会議所連合会の北村でございます。地域の実情を踏まえてということでございますので、私からは、関西広域連合第3期広域計画に加えまして、中部圏、北陸圏との連携を視野に入れた中長期の将来ビジョンの作成をお願いしたい、このように思っております。

と申しますのは、昨年12月、北陸新幹線の敦賀以西ルートが決定されました。本県にとっては残念な結果ではございましたが、今後、残るルートを適切に決めていただいて、一日も早い全線の開業を私たちも強く望んでいるところでございます。

ところで、報道によりますと、敦賀 新大阪の着工、また完成時期が30年後の2046年と言われております。一方、リニア中央新幹線は、関西との繋がりは2037年という予定になっております。そういったものが繋がってまいりますと、この関西経済圏と北陸、関東、中部、地域との繋がりが今まで以上に大きくなってきて、また流れが大きく変わってくる、このように予想されます。本県にとりましては、名古屋に加え、新たに三重県側にも玄関口ができると、こういうことも言えようかと思えます。滋賀県の県庁所在地大津からは100キロ圏内に関西3空港、関空、神戸空港、伊丹空港がございしますが、加えて中部空港も100キロ圏内。同じく港湾につきましても大阪、神戸等に加え、四日市、名古屋、敦賀等々がございします。また、鉄道は新幹線のほかJ

R琵琶湖線を初め3幹線が運行しており、大津から新快速で京都までは10分、大阪まで40分という、これまで関西の持つ高度のインフラなど、そのメリットを多大に受けてまいりました。しかし、今後は観光振興等々を考えた、また経済交流を考えた中では、中部圏、北陸圏との連携も視野に入れた戦略が不可欠になると考えております。

折しも昨年の暮れ、2016年生まれの子供の数が、1899年の統計開始以来100万人を割り込むという、非常にショッキングなニュースが報道されました。少子化、人口減少はいよいよ本格的に顕在化してきた感がございます。また、いわゆる2025年問題がございます。人口が減る一方で、医療や介護の費用がふえ、国も地方も財政はぎりぎりの状態になるという現実が予想されます。これは関西地域も例外ではない、このように思っております。

そうした中で関西広域連合では、平成29年から3年間の第3次広域計画がスタートされます。そこで、今申し上げましたように状況の変化を踏まえ、もっと民の力を活用する方向で、中部圏、北陸圏との共栄が図れるなど、新たな視点による中長期のビジョン、戦略の作成をお願いできればと思います。

それともう1点、琵琶湖、淀川流域の源を担う県、地域といたしまして、淀川流域の抱える問題に対して、官民挙げてしっかりと対応してまいりたい、こう考えております。私たち滋賀の経済界も、関西広域連合との協働のもと、示された将来像の実現に向け取り組んでまいりますので、何とぞよろしく願いいたします。

以上、報告を終わります。

事務局長（中塚則男）　　ありがとうございました。

奈良県商工会議所連合会、小山理事、お願いします。

奈良県商工会議所連合会理事（小山新造）　　奈良県商工会議所連合会の小山でございます。どうぞよろしく願いをいたします。私からは、観光振興並びに交通インフラの整備についてお話しさせていただきたいと思っております。

まず、1点目でございますが、観光振興については、奈良県にとりましては最も重

要な産業の1つとなっておりまして、年間約4,100万人の観光客にお越しいただいて  
いるところでございます。特に昨年は20年に1度の春日大社第六十次式年造替を初め  
とし、これまで閑散期であった時期に、明かりや音楽をテーマにした新たなイベント  
が実施されるなど、1年を通じて様々な催しが開催されるようになりました。これが  
誘客に結びついているのではないかと考えております。特に新しく出てまいりました  
色々なお祭り、大きいものになりますと10日間ほどでございますけれども、92万人ぐ  
らいの方にお越しいただくようなお祭りもでございます。また、昨年立ち上げました平  
城宮跡を中心に、大きな山車と言いますか、東北などで行われているようなものを造  
り、色々な観光客に来ていただけるような催しを続けておりますけれども、これらの  
周知につきましては、今まで独自で行ってきており、まだまだご存じない方が多いわ  
けでございます。できますれば関西全体で連携して取り組んでいただき、大きな集客  
効果につなげていただければと思っております。昨年立ち上げられた国際観光推進本部の  
活動には大いに期待をしているところでございます。

また、これらの内容につきましては、地域の文化と自然資源を生かした地域主導型  
の商品開発が重要となってまいりますし、そうした動きを指導できる人や組織の育成  
を充実させることで、満足度アップに結びつけていくことが必要ではないかと思っ  
ております。そして、単に流行やブームを追うのではなく、各地のルーツに根差したも  
のを売り込むことが大切だろうと。そして、関西の歴史や文化、伝統の多様性を生か  
すべきではないか、このように考えております。

次に、観光とも関連いたしますけれども、地域構造を考える上で、交通インフラの  
整備は様々な産業を活性化させていく上で、本当に重要な要素であると考えておりま  
す。先ほども申し上げましたとおり、年間4,100万人という多くの来訪がありますが、  
そもそも奈良には宿泊施設が少ないという不名誉な情報が定着しているようで、多く  
のお客様が日帰りでコースを組まれるケースが多いようでございます。宿泊施設の問題  
につきましては、年々改善してきておりますけれども、3年後に奈良市にオープン

する予定のJWマリオットホテルなどをはじめ、奈良公園内にもグレードの高い施設の計画が進められているほか、飛鳥村の宿泊強化に向けて、星野リゾートの進出も検討されており、質量ともに一層充実してくるものと思われま。

そして、次に改善していかなければならないのが、道路アクセスの問題でございます。今後、県全体、あるいは関西を周遊観光するためにも、奈良県で言えば南北に縦貫する京奈和自動車道の全線開通は喫緊の課題となっております。現在、部分開通が進んでおりますが、ミッシングリンクが多く、渋滞の原因となりますので、京奈和自動車道をはじめ、関西圏を大きく取り巻く道路網の形成を早く実現していただきたいと思っております。そのように取り組んでいかないと、交通の連携性を高める首都圏との格差がますます開いてしまい、首都圏と関西の二極構造で国土を牽引するという国土構想の実現は、さらに難しくならないか危惧いたしております。これに対する重点的な整備に向けて、連携した取組ができればと思っております。

最後になりますが、リニアの早期の開通もそうでございますし、そして最も奈良が思っておりますのは、奈良に駅をつくっていただけないかということでございます。どうぞよろしく願いいいたします。

以上でございます。

事務局長（中塚則男） ありがとうございます。

続きまして、和歌山県商工会議所連合会、片山会長、よろしく願いいいたします。

和歌山県商工会議所連合会会長（片山博臣） 和歌山商工会議所の片山でございます。本日は少しお時間をいただきましたので、関西広域連合として取り組んでいただければと思っております、交通インフラの整備促進について、少し述べさせていただきたいと思っております。

地域の経済の活性化、あるいはまた先ほどからも話のございます観光、特に広域観光の振興のためにも、関西全体、広域的な交通網のネットワークが不可欠であると思っております。関西圏を見ますと、東西の交通網は、かなり順次充実されてきておりま

すけれども、先ほどもお話にございましたとおり、南北の交通網というのは、まだまだ極めて不十分ではないかと思っております。

和歌山県として見ますと、これまで行政のご努力によりまして、いわゆる第二阪和国道が開通の運びで、これで大阪 和歌山間、かなり人・物の流れがスムーズになると大いに期待しているところであります。また和歌山県内におきましても、順次高速道路の整備が進んでおりますけれども、和歌山はとにかく南北に大変長い県で、その間、まだ幾つかのミッシングリンクがございます。特に県南部につきましては、人・物の流れをスムーズにするという経済効果に加えて、南海トラフの巨大地震に対するいわゆる防災対策の中で、そうした地震発生時の避難経路とか、あるいは防災拠点としての機能をきちんと確保しておく、そういった点からも高速道路の未整備部分は是非とも早く解消して、いわゆる近畿自動車道の紀勢線の全線開通に向けた強い働きかけを広域連合としてもお願いしたいと思っております。

次に、東西と南北の交通網がありますけれども、それをさらに経済的に効果のあるものにするためには、それらを有機的に繋ぐ環状道路が必要じゃないかと思えます。先ほども少しお話がありましたが、大阪湾の環状道路、あるいは関西大環状道路、これの実現が経済の活性化、あるいは広域観光のためにも是非必要ではないかと思えます。先ほど少しお話がありましたが、京奈和自動車道が順次延伸されておりますけれども、この京奈和自動車道の京都、奈良、和歌山の全線早期開通を是非とも応援していただきたいということと、加えて大阪湾環状道路あるいは関西大環状道路の実現には、現在ミッシングリンクとなっております紀淡連絡道路の建設がどうしても必要ではないかと思っております。紀淡連絡道路が実現しましたら、先ほどからもお話がございましたとおり、関西エリアでの極めて重要なゲートウェイであります関西国際空港のさらなる利用の促進、特に国土軸と直結します関空新幹線、これができれば非常にアクセスがよくなりますが、関空から紀淡海峡、それから四国と結ぶ高速交通インフラの整備、これに向けての大きな一歩になるのではないかと思っております、これ

からの地方創生と国土強靱化、この2つの観点から、紀淡連絡道路の整備について、関西広域連合におかれましても、是非、優先的に取り組んでいただけるよう、お願いいたしたいと思います。

以上です。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

続きまして、鳥取県商工会議所連合会、藤縄会長、お願いします。

鳥取県商工会議所連合会会長（藤縄匡伸）      3点申し述べさせていただきたいと思ひます。

まず、昨年の10月21日に発生いたしました鳥取県の中部地震に対しまして、関西広域連合様から多大なご支援を頂戴をいたしました。厚く御礼を申し上げます。この地震では、御多分に漏れず観光業界を中心に風評被害が発生をいたしました。しかし、既に鳥取県は元気に営業中でございます。この1月10日から始まりました「とっとりで待っとります」キャンペーンで、官民挙げてお得なツアーも用意して頑張っておりますので、皆様方の地域からも是非とも鳥取にお越しをいただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

2点目でございますが、この11月に鳥取市で北前船のフォーラムを開催いたします。これは平井知事の駄洒落の影響と申しますか、毒されたと申しますか、私も「鳥取に來たまえ」と叫んでおります。また、大型災害時の代替ルートでもある日本海側の繁栄のための夢とロマンに満ちたイベントですので、この機会に皆様方、ご来鳥賜りますようよろしくお願い申し上げます。

3点目でございます。こうしたイベントの際、あるいは鳥取、兵庫、京都にまたがる世界ジオパーク、山陰海岸ジオパークの通常の観光におきましても、またインバウンドの振興におきましても、様々な交通アクセスの充実が不可欠でございます。現在、JR西日本が外国人向けに発行しておられる関西ワイドエリアパスというのがありますが、兵庫県の浜坂で止まっており、鳥取まで繋がっておりません。これを鳥取まで

延ばしていただく、そして播磨の方まで繋げますと、関西全体の周遊が可能になりますので、東京オリ・パラ、あるいは関西ワールドマスタースゲームズの開催も控えておりますので、この関西ワイドエリアパスの利用範囲の拡大につきまして、ご助力をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。

事務局長（中塚則男） ありがとうございます。

続きまして、徳島県商工会議所連合会、中村会長、よろしくお願ひします。

徳島県商工会議所連合会会長（中村太一） 昨年11月に徳島県商工会議所連合会の会長に就任いたしました中村でございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

私からは2点お願ひしたいと思います。

まず1点目は、四国新幹線の整備促進についてでございます。新幹線につきましては、昨年3月、北海道新幹線が開業し、四国は全国で唯一の新幹線空白地帯となっております。新幹線はもはや基礎的なインフラであり、交流人口の拡大、国土の均衡ある発展はもとより、南海トラフ地震への対応力強化の観点からも、その整備は不可欠でございます。徳島商工会議所を初め、四国商工会議所連合会におきましては、四国4県、四国経済連合会とともに、四国への新幹線導入に向けた要望活動を行っているところでありますが、関西広域連合におきましても、大阪市を起点とし、先ほど和歌山県商工会議所連合会、片山会長からもございましたけれども、紀淡海峡ルートにより徳島市を經由し、大分市を終点とする四国新幹線の整備促進について、格別の取り組みをお願ひしたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして2点目は、多様な人材の活躍の促進と円滑な事業承継の促進についてでございます。徳島県の有効求人倍率は昨年11月の数値が昭和40年に数値をとり始めて以来、過去最高の1.40倍を記録し、41カ月連続で1倍を超え、関西地域では大阪府の1.44倍に次ぐ高い数値となっており、雇用情勢の改善が進んでおります。一方で、地

方の中小企業においては、新規採用が大変厳しい状況であるとともに、優れた技術や製品を持ちながらも経営者難による廃業を余儀なくされるなど、人手不足と後継不足が重要な課題となっております。こうした中、平成27年4月に、徳島商工会議所に設置されました事業引継ぎ支援センターにおいては、昨年、相談件数、成立件数とも大幅に増加するとともに、初めて圏域を超えた企業とのマッチングを成功させるなど、成果を上げつつあるところです。今後、さらに事業承継に関する企業や人材に関する情報について、自治体とのネットワーク化や圏域を超えた広域での連携を図ることにより、多様な人材の活躍の促進と円滑な事業承継の促進をお願いしたいと思います。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長（中塚則男） ありがとうございます。

それでは続きまして、関西経済連合会、角副会長、よろしいですか。

関西経済連合会副会長（角 和夫） 関経連で都市創造・文化観光委員会を担当している角でございます。よろしくお願いいたします。

観光推進本部では、関西のインバウンドの拡大に向けまして、観光を推進する各団体、施設のすき間を埋め、そして官民府県の枠を超えた取組を進めさせていただいております。昨年9月には、2016年から2018年までの3年間の訪日外国人誘致方策となる「関西国際観光指針」を策定いたしまして、2020年にはご承知のとおり1,800万人の外国人旅行者数を目指すことを官民共通の目標として掲げることができました。また、具体的な取組におきましては、「KANSAI ONE PASS」でございますが、昨年4月に発売し、10月までに当初製作した3万枚を完売しまして、さらに3万枚の追加をこれから打っていくこととなります。今のペースですと年間6万枚ですけれども、私どもが個社でディスカウントのフリーチケットを発売しますと、40万枚、50万枚というオーダーで売れておりますので、6万枚ということは、一見順調には見えますけれども、まだまだ魅力を付加することによって、枚数を増やせる余地があると思いますので、私どもといたしましても、さらなる「KANSAI ONE PASS」の魅力向上につきます

て、皆様と協力をして進めていければと思います。

また、昨年10月にWi-Fiのワン認証が全国に先駆けて関西で実施できたこと、これも私どもの非常に大きな成果であると思います。大体24,000カ所でアクセス可能と聞いておりますけれども、さらに魅力を上げていくことが重要であろうかと思えます。

そして、2017年度からさらに取組を加速させるため、今年4月に現在の関西国際観光推進本部と事務局を担っております（一財）関西地域振興財団を統合し、関西観光本部としてリニューアルをして体制強化を図り、いわゆる広域連携DMOを目指して頑張ってもらいたいと思います。

そして、先月22日に開催した観光推進本部の会合でご承認をいただきましたが、実際に新たな体制のもとで事業を進めてまいりますためには、財源の拡充などが必要です。本日お集まりの皆様から、より一層のご支援をいただければ幸いです。多言語コールセンターの整備事業、あるいは手ぶら観光普及事業といった新規事業につきましても、皆様と一緒にこれから頑張ってもらいたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

以上でございます。

事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

続きまして、佐藤副会長、よろしく申し上げます。

関西経済連合会副会長（佐藤廣士）      佐藤でございます。私からは、関西のスポーツ振興について申し上げます。

今年度、関経連では、関西の発展を牽引する新たな成長産業として、スポーツに着目し、競技スポーツの振興、健康医療産業とのシナジー、あるいは観光産業とのシナジー、この3領域を中心に具体的施策の検討を行っているところでございます。これは関西広域連合で掲げておられる関西広域スポーツ振興ビジョンと方向性が合致しておりますので、本日ご出席の経済団体の皆様とも、あるいは自治体の皆様とも密に連携をさせていただき、関西一丸となって取組を進めさせていただきたいと思っておりますの

で、よろしくお願い申し上げます。

その上で、私からは以下の2点を申し上げます。まず、1つ目ですが、冒頭、井戸連合長からもお話がございました2019年から2021年に控えますゴールデンスポーツイヤーズについてです。世界最高峰のメガスポーツイベントが3年連続日本で開催されるのは世界初であり、スポーツ産業振興にとり、まさに未曾有の好機といえます。特に関西が会場となる2019年のラグビーワールドカップ、あるいは2021年の関西ワールドマスターズゲームズ、これらを是非とも関西のスポーツ産業振興の起爆剤として最大限に活用しなければなりません。しかしながら、現時点では両イベントの認知度は決して高いとは言えず、大会開催に向けた準備もこれからが本番です。ラグビーワールドカップは「見るスポーツ」の祭典、ワールドマスターズゲームズは、「するスポーツ」の祭典でありますので、これらを一連のストーリーとして、関西のスポーツ産業振興に繋げるための方策や機運の醸成、あるいは地方創生に資する、大会後のレガシーのあり方などについて、本格的に検討をしていく必要があります。関西広域連合におかれましては、こうした点について、関西の産学官が一丸となって検討していく場を設けていただきますようお願い申し上げます。

2点目は、総合型地域スポーツクラブについてです。スポーツ産業振興にはスポーツ人口の拡大が必要であり、そのためには誰もが気軽にスポーツを楽しむ場としての総合型地域スポーツクラブの活性化が必要となります。総合型地域スポーツクラブの活性化は、指導者としてのアスリートの働き口確保にも繋がるため、関西出身のトップアスリートが関東に流出する、スポーツの関東一極集中の是正や、スポーツによる地域活性化にも寄与するものと考えております。総合型地域スポーツクラブと民間スポーツクラブとの連携を図り、クラブ運営のノウハウやスポーツ指導者の活用、あるいは会員の獲得等において相互に利点を見出す枠組を構築するなど、ご協力できる部分は多々あるかと考えております。関西広域連合におかれましては、クラブ未設置自治体の解消、あるいは活動充実に向けた支援強化を進めていただくようお願い申し上げます。

げます。

私からは以上でございます。

事務局長（中塚則男）　　ありがとうございました。

経済界の皆様からいただきましたご意見、ご提言等につきまして、最初に連合長のほうから総括してコメントをお願いできますでしょうか。

広域連合長（井戸敏三）　　総括してとなると大変難しくなりますが、ただいま皆様からご指摘いただいたことはいずれも、日頃から、関西広域連合としても取り組むべき課題であると認識しているものでございます。そのような意味で、森会長が最初お触れいただきましたように、経済界と関西広域連合のような官とがスクラムを組み、関西の飛躍のために積み重ねていく、この基本的な対応を是非これからも維持させていただきましたら幸いです。そのような意味では、お互いの認識を確認し合えるこの意見交換会、大変有意義であると思っております。

私が担当しております幾つかの分野で、若干のコメントをさせていただきたいと思っております。万博誘致につきましては、後ほど大阪府からコメントがあるかもしれませんが、倉持副会頭がおっしゃっていたように、関西全域でのというよりも、関西を初めとする日本全体の盛り上がりが必要になるかと思っております。そのような意味で、スクラムを組むという言葉だけではなく、具体の活動を展開していく必要があるのではないかと。今、国の会議でコンセプトが議論されておりますが、コンセプトの議論が終わりましたら、それをベースにして内外に働きかけていく、こういう基本姿勢を貫かなくてはならないのではないかと。

観光のプロモーションで海外等に出かけることが関西広域連合としてもありますが、そのような機会に必ず関西ワールドマスターズゲームズ2021にいらっしゃいということと万博を大阪でやりましょうということの呼びかけを一緒にしていく、このことが不可欠なのではないかと思っております。

また、先日、私、北陸新幹線の大阪乗り入れについて、二階幹事長や石井大臣にお

会いしてまいりました。鉄道局が出したペーパーですが、虫眼鏡で見なくてはならないような脚注に「平成43年以降着工」と書いていたわけで、このことについて「早期着工をしてもらわないと構想倒れになってしまう」というような話をしましたところ、両者の認識が、「財源の確保がされていない状況の中で試算をしようとする、あのような脚注を付けざるを得ないことについて理解してほしい。いずれにしても、与党の方で整備をするための財源確保について議論が始まるので、その議論を十分に見定めてほしい」というような意見でございました。そのような意味で、これから地元としてもどんなことができるのかということも含めて、プッシュをしていくことも必要ではないかと考えております。私、冗談ぼく、「関西の府県に出資を募るというような活動も本気度を見せるために必要になるのかもしれない」というようなことを、あわせて発言しておきました。

それから、自然災害に関連いたしまして、関西に防災庁を設置する意義を家次会頭からご指摘いただきました。今、専門家で防災庁を設置した場合の機能を議論していただいております。今年度中には報告書をまとめる予定にしております。東日本にしても、熊本にしても、なぜ混乱が生じているのかを考えてみたときに、やはり事前のシナリオ、復旧シナリオをきちんと持っていないことが一番大きな課題ではないか。そのような意味では、我々自身も事前復興計画を作っていく必要がありますけれども、その事前復興計画だけで済むのか。そうではなく、災害が起こる予測の問題と、起こった直後の問題と、それから復旧復興についての支援の問題を、1つのところでトータルに取り扱う部署が必要ではないかという観点。それからもう一つは、双眼構造の確立の問題もありますが、首都直下型地震が今後30年のうちに70%、南海トラフと同じ確率で発生すると言われております。首都直下型地震が起きたとき、政府は立川に本部がある、本拠があると言っていますが、立川にどのように行くのか、もしかすると行けないかもしれない。そのような事態も想定しておかないといけない。そのような意味で、関西の果たすべき役割十分に発揮していかななくてはならないと思っております。

また、省庁移転については、関西が文化庁を初めとした省庁移転、あるいは外郭団体の移転で、ある意味、成果を獲得していますが、国自身の方針も今後とも推進を図っていくということですので、それに対する働きかけをさらにしてまいりたいと考えています。

それから、健康・医療のポテンシャルのある関西ですので、その健康・医療のポテンシャルをどのように生かしていくか。医療・健康を通じた産業化をさらに進めていくことについては、関西医療創生会議の5分科会において、具体のテーマを設けて議論を進めているものでございます。おっしゃるとおり、この官民学のスクラムを組むだけではなく、その検討のスピードアップをし、具体の産業化にできるだけ早く結びつけていくことが狙いですので、そのような意味で、メンバーの皆さんともども、努力を重ねてまいりたいと思います。関西のオリジナリティーを生かせというお話がございましたが、まさに関西の持っているポテンシャルを生かすことが関西のオリジナリティーを生かすことに通じると考えております。

それから、関空新幹線の話の前田会頭におっしゃっていただきました。関空新幹線だけで止まっては困るので、関空新幹線を造るならば、四国までの四国新幹線とドッキングし、四国新幹線、関空新幹線、両方の働きかけをしていかなければいけないと我々も認識しているものでございます。

それから、IRの誘致と推進は、私も大変重要だと認識しております。法が成立した今となつては、ギャンブル依存症対策を徹底的に議論してやっていただき、そして健全なIR本来の目的に従った整備を推進することによって、大阪湾に拠点をさらに造っていくという基本方向は私も大賛成でありますので、そのような意味でご理解をいただきたいと思います。カジノについてはどうかと聞かれたら、また別ではあります。その点をご承知おきいただいたら幸いです。

広域ネットワークは他の委員にお願いしたいと思います。

残りは、スポーツ。担当しておりますので、お答えをしないといけません。まさに

この2019年、2020年、2021年と3つの大きな国際大会が日本で開催され、そのうちの2つが関西が中心ですので、これを契機として、スポーツの振興だけではなく、スポーツを通じた健康づくりやスポーツを通じたツーリズムということに結びつけていく必要がある。基本方向は、まさに同位双方向、ベクトルは一致しておりますので、是非、協力しながら推進を図っていきたいと考えております。特に「見るスポーツ」と「するスポーツ」と仕分けをしていただきましたけれども、そのとおりであり、「見るスポーツ」の大会と、「するスポーツ」の大きな世界大会の推進に力を入れていきたいと思っております。

最後に、総合型地域スポーツクラブ、これは私ども、実を言いますと法人住民税の超過課税を活用して、地域スポーツの拠点づくり「スポーツクラブ21」を5年間、120億円ぐらいかけてやっているのですが、現実に活発に続いているスポーツクラブは余り多くない。5割ぐらいになってしまっているのではないかと思います。お金の切れ目が縁の切れ目にならないように、兵庫県では、「スポーツクラブ21」の全県大会を開催することによって、クラブ活動をいわば引きつける、継続していただくということを行っております。ドイツで行っているようなスポーツクラブが定着してくれることを期待したのですが、各総合型よりは、サッカーとか野球とか、こういう単一スポーツクラブの方がわかりやすいということもあり、そちらへの関心が強い。これをどう統合型と結びつけていくかが課題だと認識しております。そのような意味で、地域の活力を生み出すためにも、ご指摘いただきました地域スポーツクラブの活性化について、さらに推進を図っていくようにしていきたいと思っております。これは先ほど申しました、「するスポーツ」の振興、それからスポーツを通じた健康づくりに繋がっていく。子供たちの体力が以前と比べて落ちていると言われているところでもありますので、そのような意味での推進も図らせていただけたらと思います。

私からは以上とさせていただきます。

事務局長（中塚則男） 特に私から指名いたしませんので、適時ご発言をお願い

できますでしょうか。

副広域連合長（仁坂吉伸） 本日は、たくさん示唆に富むお話をいただき、ありがとうございます。行政の1つの長として、「これはいただき」というものがたくさんありましたが、私は、関西広域連合の広域インフラの担当をしており、その関係のお話が随分たくさん出ましたので、その分野だけ申し上げたいと思います。

まず、北陸新幹線でございますけれども、先ほど広域連合長からお話がありましたとおりでございます。私も自民党の茂木政調会長のところに、少し先走ったような形で決まる前に伺いましたが、「平成43年というのは、今の新幹線の予算の割付を全部決めているからであり、それ以外がいつからというのははっきり言えないので、そういうことだと思ってください。我々が政策を決めているわけではありませんから、お金をつける努力をまずして、それでできるだけ早い時期にやっていきたいと思えます。」とおっしゃっていました。したがって、我々関西広域連合の行政の側も、熱心に「早く、早く」と言っていけないといけないと思いますが、財界の皆さんも、是非、その方向で声を合わせていただきたいと思いますと考えております。

それから、四国新幹線、関空新幹線のお話がありました。同じく茂木政調会長のところへ伺ったときに、向こうからお話が出たのですが、「実は、北陸新幹線の次の新幹線をどうするかというプランも頭に入っていて、それで新幹線に関する調査費を大幅に増額しました。その中で、これははっきり明示できませんけれども、山陰新幹線、あるいは四国新幹線、そういう基本計画があるものについて勉強をし始めていただいて、それで技術的にどのような問題があるかというような話をやってもらったらいい。例えば、四国については橋の新幹線であり、橋の新幹線は、どのようにしたら造れるのかというようなことについて勉強してもらったらいい。そういうことをやりながら、次のステップに段々で行ったらいいのではないか。」というようなことを言っておられました。

先ほどネットワークの話もありましたが、やはりネットワークや軸は、結構大事で

あると最近本当に思っています。京奈和がもうじきできる。それで、奈良に繋がって、和歌山の方からいうと大阪に繋がって奈良に繋がって名阪に繋がっていくと。もう一つの軸ができるのが高速の関西における横断というか、東西はまず京都を通過して、滋賀を通過して、岐阜を通過して名古屋に行くことになっておりましたけれども、もう一つ南の方で、少し小さいかもしれないけれども軸ができていくと思います。そうすると、関西全体の厚みも随分違うのではないかと思います。

もう一つは、縦の軸というのもあり、先ほど、片山会長からお話があった紀伊半島一周は大分完成に近づいてまいりました。あわせて奈良の真ん中を五新線、168号が準高速仕様で南にすっと出ることによって、そんなに広い軸ではありませんが、もう一つの縦の軸が真ん中に通っていきます。そうすると関西全体の設計上、非常にいい構造になっていくのではないかと考えております。

このようなことについて、関西広域連合では基本的な考え方として、簡単な1枚紙ですが、色々と哲学をまとめました。また、高速道路網、それから高速鉄道網のマッピングを行い、皆でいい運動をしようよという構想です。高速道路網は今申し上げたようなことも含めて全部できております。それで、我々一同、どこへ行っても同じことを言おうと申し合わせをしているものでございます。

鉄道については、色々な議論があり、まだ完成してない。少し意見の対立があり、まとまり切れていないのですが、段々とまとまる状況になってきていますので、これも同じような話にしていきたいと思っております。

自動車ネットワークという点では、関西外環、大阪湾内環という考え方。それから、先ほど話がありました四国新幹線。これも関空を通過して新大阪まで持っていくことができるので、大阪を中心にしてぐるっと回る色々なものが完成するのです。そこには紀淡海峡というもの凄く大きなところがあり、これを何とかしないと全部できないのですが、その紀淡海峡の構想については、10年前ぐらいに少しトーンダウンしたところがあります。ただ、先ほどのようなお話もありますし、継続して関係者で頑張っ

いこうと思っています。四国新幹線については、実は、関西の中で昔は意見の対立があり、井戸連合長のご英断で、「新幹線については、明石でなく紀淡を通過して、関空を通過して、大阪へ行くのでよい。私も応援する。」とおっしゃってくれているので、私は首謀者になり、その話を一生懸命やっています。ただ、声が小さいので、皆様の応援をお願いしたいと思います。

それから、先ほど藤縄会頭や角副会長から、別々のアイテムですけれども、「JR共通の色々な道具をもっと拡大して欲しい」というようなお話がありました。これはJRだけではなく、私鉄もですが、もの凄く武器になると思います。和歌山のような、鳥取もそうかもしれませんが、端の方におりますと、「ここまで」などと、すぐ色々なものを切られてしまいます。それを「もう少し南までやってください」というのが和歌山県のお願いであるとともに、鳥取県もそうだと思います。「関西広域、関西一円を全部同じように扱ってください」ということを、できるだけ言ってまいりたいと思っています。

それから、Wi-Fiの話がありました。私の担当かわからないのですが、通信インフラもインフラですので申し上げますと、Wi-Fiはうまくいきましたが、もうじき5Gの携帯の世界になると思います。そのとき、新幹線の今の整備のような方針で東京の周辺から少しずつ開始されると、関西が劣後に置かれるので、むしろ、「東京からではなく関西から」と言うぐらいの勢いでやっていただきたいと思っています。

これも担当とは違うのですが、IRについては、私は井戸連合長がカジノ反対と言われたのと同じぐらいの歴史で、カジノ賛成とずっと言い続けています。ただ、すごく地味なものですから、皆、カジノというと大阪、IRというと大阪ということになり、アレっと思っています。新聞などに少しも出ないのですが、歴史的に言うと老舗なんだけどなど。この考え方は変わらないのですが、大阪はシティー型のIRになり、和歌山などはリゾート型のIRになるだろうと思っています。2つあるのはどうかという点について、私も心配ですから打診している業者さんなどに色々聞いてみたので

すが、「2つあって結構です」というふうにおっしゃっており、「大阪にないから造ろう」というときにも、「和歌山にも造ります」というようなことでありました。したがって、同じようなものが幾つかできたらいい。ただし、井戸連合長と同じように依存症対策だけは無責任ではいけないと思っている。したがって、既に和歌山は「日本人は入れてあげない」と宣言しており、それで嫌だという業者は要らないと決めており、井戸連合長に怒られることはないのではないかと思っております。

以上です。

委員（山田啓二） 関西広域連合で広域観光と文化を担当しております京都府知事の山田でございます。

観光文化につきましてもたくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。関西が1つになる一番大きなメリットのある分野というのは、やはり観光・文化ではないかと思っています。この間、経済界の皆様にも関西国際観光推進本部の設置、そして今春の関西観光本部の発足に向けましても、大変お力添えをいただいております。改めて心からお礼を申し上げたいと思います。

そうした中で、幾つかお話がありました点について、お答えしたいと思います。関西観光本部につきましては、官民挙げて一緒になって頑張っていきたいと思っています。既に「KANSAI ONE PASS」やWi-Fiの統一化について非常に大きな成果を上げてきたところであり、次のステップへ移りたいと思いますけれども、KANSAI Free Wi-Fiについては、対象アクセスポイントが現在、24,000箇所までまいりました。関西全体で無料Wi-Fiスポットは6万箇所を超えていますので、さらに拡げていく必要があるのではないかと思っています。これからのところは割と細かいところが出てまいりますので、そうした点を皆でうまく協調しながら進めさせていただきたいと思っています。

「KANSAI ONE PASS」につきましては、実はJR西日本の「WIDE Area Pass」と同じ問題がありまして、普及してくるほどどこまで行けるかという話が深刻な問題として出てくるのではないかと考えています。関西観光本部には、JR西日本も加わって

いただけるということらしいので、しっかりと取組を進めていけたらと思っています。

それから、多言語コールセンターや手ぶら観光事業についてです。特に多言語コールセンターについては、滋賀、京都では24時間対応していますし、和歌山なども対応しています。大阪も取組を始めるといように、各府県市が現在、取り組んでいるところですので、将来的には、Wi-Fiと同じように、関西のどこからでも対応できるような多言語のコールセンターを設置することを一緒に目指していきたいと思っているところであります。

それから、立石京都商工会議所会頭からありました「文化による関西創生」ですが、文化庁の移転は本当に大きな意味があると思います。「東京でしかできない、東京ならできる」という今の考え方に対して、「日本の文化を生み出してきた関西こそが、新しい文化の発信点になる」と、東京一極集中を是正する観点からも、是非とも文化庁の移転を皆様とともに成功させていきたいと思っており、関西の経済界の皆様にも、これからできます地域文化創生本部を中心とした事業について、是非ともご協力をお願い申し上げます。

それから、もう一つ文化庁の移転は意味がございます。今回、文化庁と移転協議をしていますと、文化庁では「新文化庁」という言い方をしています。文化や文化芸術振興基本法を変え、その中に新たに文化財の活用も含めた観光産業、コンテンツ産業、食、そして伝統産業など、文化財の保護・維持から文化産業へとかなり軸足を広げていきたいという意向です。文化産業は、これから非常に重要な位置を占めてくる中で、関西にとりましても、大きな役割を果たしていくと思っており、文化庁の移転を突破点として新たな産業行政を関西から興していけたらと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

それから、堺商工会議所連合会の前田会頭からお話がありました、世界文化遺産、百舌鳥・古市古墳群につきましては、既に私ども、関西の世界遺産等をKANSAI国際観光YEAR事業のテーマに取り上げ、その中でこの古墳群の話も一生懸命PRさせていた

だいているところであり、さらに今年も頑張っていきたいと思っています。

また、自転車観光の推奨につきましては、特に京都と奈良と和歌山、180キロに及ぶ自転車道の建設を今、連携してやっており、社会資本整備総合交付金を受け、今年度、調査・設計を行っているところです。そして、関西は、サイクリング関係の催しだけでも四、五十あります。こうしたものをうまく有機的に繋げ、是非とも新しい体験型観光の中に取り入れていきたいと思っています。

それから、I Rについてですが、連合長、副連合長からそれぞれお話がありましたけれども、関西広域連合の公的な立場というのが実はございます。「具体的なI Rについての動きが出たときに、もう一回、関西広域連合としてしっかりと検討し、それに対応する」というのが、I Rの研究会を設けたときの結論になっています。ですから、これからI Rが具体化するに従い、関西各府縣市との関係、広域的な視点からのI Rの振興、こうしたものを踏まえて関西広域連合として検討していきたいというのが、公的な見解だと思っており、よろしくお願い申し上げたい。また、そこに今回できる広域連携DMOが絡んでいくのがよいのではないかと考えているところです。先ほどの「WIDE Area Pass」の話もそうした中で考えていきますと、関西全体の観光をどうしていくのか。広域連合だけではなく、広域連携DMOを通じて官民を通じて様々な観光の拠点をうまく連携させ、基盤整備していくことによって、関西全体の活性化につなげていくような形をとれたらと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、自分の所掌ではないのですが、広域インフラのことについて、1点だけ述べさせていただきます。先ほど、仁坂副連合長は大変マイルドな言い方をされたと思っておりますが、高速鉄道網については、正直言ってなかなか議論が進まない現状があります。私どもも北陸新幹線、リニアについては独自の意見を申し上げますけれども、一番のポイントは、今の広域高速鉄道の体系は、大体昭和48年に決まったものだということです。昭和48年には、関空は影も形もなく、場所は決まるか決まらない

かというときですし、リニアという言葉もなかったと言いますか、宮崎でリニアが浮くか浮かないかということをやっていたときです。そうした中で、これから高速鉄道網を考えていくときに、北陸新幹線もリニアも一緒ですが、どこでどのような形で交差をさせるのか、そこに山陰新幹線や関空・四国新幹線の問題があったときに、既存のJRや市の間で、どのような形でネットワークを作るのか。こうした議論が全くなされていません。新大阪にリニアも北陸新幹線も四国新幹線も全部大深度に入れていくことが本当に可能かどうかという検討を誰もしたことはありません。こうした連携を、どこでどうやっていくのかという検討を、どこかでしっかりしていけないと、関西の未来の高速鉄道網は大混乱のまま、実現可能性のないところで終わるのではないかと思います。私は、やはりこうした議論がしっかりできる土壌を官民で作っていく必要があると思っています。どちらかという今、ルート問題についてはほとんどタブーのような話になっており、その点は残念でなりません。こうした点についても、是非この集まりの中で、積極的に関西の未来を議論できる、今後の道筋ができることを期待して、私の意見と代えさせていただきたいと思います。

委員（飯泉嘉門） 広域医療を所管しております徳島県知事の飯泉でございます。私からは、所管事項を含めて3点、申し上げたいと思います。

家次会頭さんから、関西の強みは医療だというお話がございました。連合長からも、関西健康医療創生会議の話が出ましたが、実はこの後、会議を予定しているところがあります。この中では5分科会がありますが、第2分科会が遠隔医療を担当しており、昨年10月29日、四国最大級の見本市である徳島のビジネスチャレンジメッセの中で、脳卒中をテーマとした「脳卒中の遠隔医療」のセミナーを開催しました。ポイントは副題で、「情報通信技術で繋ぐ新しい医療のかたち」とし、いわゆる広域医療については、今お話のありました医療とさらに関西の強みであるICTを連携を行っていくと。例えば、現在、手術ロボットの「ダビンチ」は3Dです。しかし、これでは十分ではない。今は4K、そして8Kの実証も行っているところです。さらには、これを

ニューヨークから遠隔操作することもできる、当然ICTの技術を使うということであり、関西の2つの強みである医療とICT技術を合わせて行っていくという形を、既に「関西広域救急医療連携計画」の第3次計画の中に位置づけており、是非、関西の2つの強みをこれからも大いに駆使をし、これらの医療の新しい形を、この関西から生み出していきたいと考えているところです。

次に、政府関係機関。移転がなかなか進まないというご指摘もありました。連合長から、あるいは山田委員からお話がありましたように、今回、政府の中核機能、つまり本省機能が移る3つは全て関西広域連合の地に移ることになっています。例えば文化庁、これは恒久移転をと。そして、3年間の期間で実証しようという消費者庁が徳島に。また、総務省の統計局が和歌山と。こうなるとまいりますと、やはり関西を挙げて官民、あるいは学の部分も含めて、何とか二眼レフ構造をしっかりと作っていく必要がある。そうしないと、先ほど首都直下型地震の話がありましたが、富士山が爆発したのが、今年からちょうど310年前です。宝永の大地震ということで、もうそろそろ来るのではないかと。こうした話も学者の間では、まことしやかに言われる中で、やはり我々が求めている二眼レフ構造をしっかりと今のうちに作っていく必要があるのではないかと考えております。

そこで、消費者庁の観点について少し申し上げておきたいと思います。現在、政府予算案が通常国会で審議されておりますが、徳島の消費者行政、新未来創造オフィス、県庁の10階に50名規模で移ってまいりますが、5.5億円が今、予算案とされているところです。ここに集まってくるメンバーは、当然のことながら役人です。消費者庁の面々だけではなく、四国、そして関西広域連合、こうしたところからもぜひ集まっていきたいというのが1点。

それから、高等教育機関。そして、一番重要となつてまいりますのは消費者市民社会、これを形成していく中で大変重要なパートを担っていただく企業の皆さん方。今、消費者庁を初め、この分野で言っているのは消費者志向経営。こうした企業の皆さん

方、これをどんどん増やすべきだとなってまいりますと、やはり経済界との連携が不可欠になりますので、既に関経連の皆様方には消費者庁、あるいは我々の方からもお願いをさせていただいておりますが、多くの皆様方に、この新たに開かれる徳島という実証フィールドを、関西という実証フィールドを持つ新しい消費者行政、また消費者教育、その拠点を関西の経済界としても、是非、盛り上げていただきたい。そして、我々としては、こうした各省の規制行政、今では経済産業省、総務省、農林水産省と3つの省庁の規制部門がこの中に集まり、課長たちもそこから出向で来たりします。プロパーもおりますが。しかし、各省のあらゆる規制部門をやはり消費者庁に集めるべきだと。例えば、公益通報制度、これも消費者庁に集めてはどうだろうかと検討がなされております。

そうなってまいりますと、徳島で行われる3年間、その後には各省の規制部門が集まり、いわば消費者庁から消費者省へと格上げをしっかりとる。これも関西に移転をしたがゆえにこうしたことができ、消費者目線、国民目線、こうした新しい消費者行政が展開される。是非、こうした点に関西の経済界挙げてご協力をよろしくお願い申し上げます。

そして3点目、これは前田会頭さん、また片山会長さん、中村会長さんからもお話のありました関空新幹線、そして四国新幹線。連合長、副連合長からもお話がありました。これは非常に画期的な話が今回出ました。というのは、平成29年の政府予算の中に、副連合長からもありましたように、基本計画路線、今までせっかく国が位置づけておきながら全く手放しであったこれらについて調査費がついた。どれをということとはまだないのですが、この枠がしかも増額査定をされたということでもあります。現在のマイナス金利を初めとして、「未来への投資を行うのはいつですか」、「今でしょ」という点も考えて、この日本全体の将来設計を今こそやるべきではないか。常にB/Cと小手先の数値ばかりを見てきたが、ようやく国土交通省もこれに気がついて、今ではストック効果を上げていくという。片山会長さんが言われた、この関西ベ

イエリア、実は3空港ではなく、これに徳島阿波おどり空港、南紀白浜空港、ともに大阪ベイエリアと共通の空整域に入っています。この5空港の滑走路を足したら全部で何と7本あり、チャンギ空港だの何だのというのは、“ちゃいちゃい”な世界である。これを有機的に繋ぐための高速鉄道網、さらには高速道路網。これが循環型になってくるということで、新しい国土軸の話も一旦は消えましたが、この将来設計、また地震列島という中の危機管理、リダンダンシー、二眼レフ、こうしたものを今こそ打ち出すべきだと考えておりますので、この点についても関西の経済界を挙げて、これはご協力というよりも推進を是非よろしくお願い申し上げたいと思います。

1点ご報告です。1月30日、もう間もなくですが、竹山市長さんのもと、サンスクエア堺で国土強靱化と交通インフラをテーマとし、仁坂知事さん、私も参画をさせていただき、堺の力をぶち上げていきたいと考えておりますので、前田会頭さん、よろしく願いいたします。

以上、3点です。

委員（三日月大造） 関西広域連合で広域環境保全を担当しております滋賀県知事の三日月と申します。本日は本当にありがとうございます。また、いつもご尽力いただいていることに感謝申し上げます。私から2点申し上げます。

1点は、関西は環境先進地域ですので、その強みは経済界の皆様方ともしっかりと連携しながら、持続可能な社会活動、経済活動をしていく、その基盤は関西にありということをしかりと発信できるような取組を行っていきたいと思います。そういう意味で、現在、広域計画のもとで広域環境保全計画を策定中ですので、その中でもそのような視点をしっかりと盛り込んでいきたいと思っています。

滋賀県商工会議所連合会の北村理事からもおっしゃっていただきました琵琶湖・淀川、水の繋がりの話ですが、例えば京都市とも疎水で繋がっているなど、関西は色々なところで水の繋がりがあります。琵琶湖・淀川流域についての研究も一定行いましたので、上流と下流の理解促進、協力、連携をしっかりと作っていくような視点でも

さらに進めてまいりたいと思います。

文化庁、消費者庁、統計局が注目されていますが、国の機関移転という意味においては、国立環境研究所の分室が滋賀県にできます。皆様方ご存じのとおりCOD、BODという水質の基準に加え、国を挙げて取り組もうとしているTOCという有機物の指標を新たに作るべく、今、研究を進めようとしております。そういったところにもまた関西一丸となって取組を進めてまいりたいと思います。

私の所掌外ですが、広域インフラのことは、多くの皆様方からご意見が出ました。どこのルートがどうだとか、どちらがどうだとか、もう本日は申し上げませんが、いずれにしても関西は日本の真ん中にあり、中部圏と北陸圏、また関西圏を繋いでいくということが大事だという、この一点で我々はまとまり、乱れることなく団結していこうということで取り組んでおります。今回、基本計画路線が整備計画路線に格上げされるという検討調査が行われるということは、今後の日本にとっても極めて大事な視点だと思います。ただ、同時にパンドラの箱を開けるようなもので、あそこもここもという議論になると、日本にとって本当に必要な鉄道路線が敷設できなくなる可能性もありますので、このあたりのことも経済界の皆さんと、我々広域連合もそうですけども、しっかりと議論をし、今までこう決めていたからこうだとか、こことけんかになるからこうだとかということ乗り越えた議論をお互いしていく必要があると思います。是非、また経済界の皆様方の色々なご示唆をいただければと思います。中部圏とは、例えば、ものづくりの面で、観光の面でどう繋いでいくのかということも、これから是非、一緒に考えていきたいと思います。

以上です。

委員（荒井正吾） 観光について少し申し上げます。

オバマさんが最後の演説で一番アピールした言葉と言われている”United in Diversity”。これは政治的なフレーズですけども、関西、我々にぴったりかなと。観光でダイバーシティのないディスティネーションは面白みがなく、1日見たら終わり

だ。「どこに行っても違う顔が見える」というのが関西の強みで、このダイバーシティを維持するのが観光の大きな原点のように思います。その上で、ユナイテッドというのは何をするのかということになりますが、関西国際空港に降りる人が1,000万人を超えて2,000万人に達するというときに、どのように移動されるか。高速バスがよくなると団体バス中心の移動になり、行き先が限られてしまいます。メインストリートと言われるところに行かれるので、ダイバーシティのあるところに散らばらない。団体からインディビに変え、そのインディビのサービスを「関西がいい」と言われるようにしていかなければならない。よく鉄道のパスで動かれる方がおられますが、先ほど「KANSAI ONE PASS」の発行が6万枚ということでしたが、いかにも少ないような感じがします。JRに私鉄、それからバスや市営地下鉄など皆が入り、このエリアの公的な乗り物を全てカバーしたら、外国の方は、案内所があればどこでも、とても隅々まで行っておられ、しかもよく歩かれますので、ダイバーシティを見てもらうのに一番いいツールではないかと思います。また、サービス、アクセスをよくするという点で、私の持論ですが、関西は東京と比べ、最大の弱点が都心の通り抜け、相互直通運転が極めて少ない。関東は何十年も前に初代都市交通課長の角本さんが相直のアイデアを出されたが、そのとき、大阪市は受けなかった。それが未だに響いていると思う。近鉄の沿線でお客が伸びているのは、阪神と近鉄の相直線だけで、他は皆、人口減少で減っています。縦の相直でも揉めることがあるが、市営が相直のプラットホームになれば必ず儲かります。関東と一番違うのがそれだと思います。これは民のお仕事ではないかと思っていますが、パスの多様化と相直の進展というのは、関西にとって、決め手ではないかと思っております。そのことだけ申し上げたい。

委員（門川大作） 京都市の地下鉄は奈良や浜大津まで行っています。さほど儲かっていませんが。

山田知事から観光と文化のことを話していただきましたが、昨年7月、この場に宮田文化庁長官が来られて、「観光と文化」、「産業と文化」、「暮らしと文化」、

「まちづくりと文化」という新たな文化行政のスタートということで、共同宣言が行われました。今までは、少し失礼な言い方ですけれども、絶滅危惧種の延命策的な文化行政でしたが、それを脱皮していく。それが関西から日本中で始まるということで、しっかりと連携していきたいと思います。

そして、もう一つは観光です。インバウンドも含めて順調ですけれども、間もなく担い手不足で大変な危機になるだろうと思います。私が市長になったときに、リーマンショックが起こり、京都の有効求人倍率は0.48になりました。今は1.3ほどですが、中小企業が、観光が担い手不足の影響を受け、今、京都みたいなところでも旅館が閉めていかざるを得ない、後継者がいない、というような現実があります。宿泊業、飲食業の75%が非正規である。こんなことでは持続可能な産業にはならないし、質の高いおもてなしもできない。担い手の育成を本気になって考えていかなければならない。給料が良い、休暇が取れる、希望が持てる、これを新しい3Kと言っているのですが、サービス業、観光業の現状は、給料が悪い非正規である、朝も夜も土日も働く、さらには展望が持てない、ではないか。何としても労働生産性を高める仕組みを作らなければならぬ。

1つの例ですが、タクシーの運転手さんは観光の重要な担い手ですが、平均年齢は60歳を超え、毎年0.7歳ぐらい上がっているという現状があります。いずれ無人運転になるかもしれませんが、まだまだ時間がかかります。今、京都で始めたのが、フォーリンフレンドリータクシーといって、フランス語、英語、中国語をきちんと研修した80人を認証し、京都駅に専用のタクシー置き場を作るところまでできました。いずれは、スマホで呼べるようにしたいが、その運転手が別料金を取れることにすれば、大卒の優秀な人間がタクシー業界に入ってくる。こういうことを一つ一つやっていくことが大事ではないかと思っています。国土交通省と連携して実施していますので、是非、こういうことも、Wi-Fiやワンパスと同じように関西全体で取り組めたらありがたいと思っています。

また、スポーツはビッグイベントが続く。素晴らしいことです。東アジアで見ますと、来年、韓国・平昌で冬季五輪、3年後は東京五輪、そして、5年後に北京で冬季五輪と続く。これだけ東アジアで続くということはなかった。我々がヨーロッパへ行くときには、パリだけ、フィレンツェだけに行くということではなく、複数の国を巡る。したがって、関西はアジアの長ですから、冬季五輪に来る人が、大阪に来て、関西を回り、それから平昌や北京の冬季五輪に行くぐらいの広域観光を仕掛けていかなければならないのではないかと。なお、昨年、奈良で行われた東アジア文化都市を、今年は京都でやるのですが、日・中・韓の文化交流をやっていこうとしています。それで相互理解を深め、観光振興にも寄与していこうということにも、共々に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、危機感を持っているのが「民泊」です。新しい法案が出ようかとしていますが、悪貨が良貨を駆逐する象徴だと思っています。京都で起こっていることですが、外国人が中古のマンションを買われ、そこにお客さんを送られる。こうすることで、既に困っていますが、京都市はどんなことがあっても集合住宅の民泊は認めないでおこうと思っています。外国人が来て、伏見のお稲荷さんは無料、平安神宮も無料、西陣織会館も無料、そして、自分の経営している民泊に泊まり、自分たちが経営している300円のラーメン屋さんへ行く、というコース。西陣織会館は、今まで観光バスの駐車場代も無料であったが、2,000円取ることになったら、とんと減った。こういうことで誰も豊かにならない。

来年、京都市はパリと姉妹都市60周年になるのですが、そのパリではこの5年間で1,800軒のホテルが閉鎖し、民泊の方が増えた。十数万円の家賃より、民泊にしたら1日1万円、2万円が取れるため、小中学校生の子供がいるぐらいの家庭が、アパートの更新を拒否される。こういうことで、学校の教室が成り立たなくなり、観光地は人口が減り出している。テロリストもその民泊に泊まっていたという現実があります。そういうことをしっかりと見つめて、きちんとした対応ができるように、関西広域連

合で国に対して意見書を出していただきました。しっかりと対応していきたいと思っています。

委員（竹山修身） 地元の前田会頭から、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録についてのご提言をいただきました。本日は推進本部の会長の松井知事が欠席ですので、本部長の私からお礼を兼ねてのお願いをさせていただきます。

本日お集まりの関西経済界の皆さん方には、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を応援いただくとともに、官民一体となって機運醸成に取り組んでいただいていることに深く感謝申し上げます。また、2月3日には関西経済同友会の蔭山代表幹事のご協力をいただき、東京のS M B Cホールで公開シンポジウムを開催します。やはり関西では百舌鳥・古市は一定の理解を得ているのですが、関東でなかなかそこまでいってない。例えば、仁徳天皇陵はどこにあるかと言ったら、奈良や京都と言う人もいますので、堺としては内心忸怩たるところがあります。これまで3回悔しい思いをしています。世界文化遺産のない大阪で、何としても今回国内推薦を得て、2019年の世界文化遺産登録を目指したいと思っています。また、2019年はビッグイベントが続く年の始まりです。3つのビッグイベントが続くこのタイミングで、推薦、登録されることで、世界の人々に対して我々の誇りである百舌鳥・古市古墳群を、より一層アピールできるのではないかと考えています。登録による経済波及効果は関西一円に及ぶと言われていています。引き続き、是非、オール関西で経済界の皆様と一緒に取り組みたいですと思っていますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

もう1点は自転車観光の件です。私たちのまち堺は「自転車のまち堺」と言われています。現在、堺市としても、「エコ」と「健康」という2つのキーワードをメインに、自転車で観光周遊していただけるように、泉州の9市4町と一緒に取り組んでいるところです。また、百舌鳥・古市は公共交通機関で直接には結ばれていません。百舌鳥・古市間は10キロありますので、電動自転車で行っていただくというルートづくり、自転車道の整備も行ったところです。ここでお願いするのは、広域観光周

遊ルート「美の伝説」を踏まえ、和歌山県とは連携していますけれども、広域的な自転車観光モデルを関西全域で作っていただきたいと思っています。京阪奈で100キロ以上と言われていますが、やはり琵琶湖とも結んでいかなければならない。琵琶湖は今、サイクリングのメッカになっています。そして徳島、鳥取とも結ぶ、そういうルート作りを是非やっていきたいと思っています。海外の方は自転車ツーリズムに非常に関心があります。関空を利用する方々に気軽に自転車をご利用していただき、それぞれの都市を周遊していただける、このようなことを考えていきたいと思っています。その中に必要なのは、やはりサイクルポートみたいなもの。着替えができるなど色々な便宜を図るほか、そこで乗り捨てでき、また乗れるというような施設を作っていかなければならないと思っています。

堺の自転車産業のルーツは仁徳天皇陵の造営から始まっています。機械金属の加工をそこで行ったことから、高い技術力を持つ職人が堺に集められ、その技術が鉄砲や堺打刃物や自転車産業、そのような脈々とした物づくりの歴史があります。自転車というのはそれぞれの地域の歴史を、また、それぞれの地域の名所を見てもらうという、それぞれの地域の誇りを呼び起こすことにもなるといいますので、そのように自転車を使って来訪者に楽しんでもらうとともに、その地域のプライドを上げていくことも大事なことだと思っています。まさにサイクルルート構想は、これからの新しいツーリズムの形を作っていけるのではないかと考えています。関西に暮らす方々の郷土に対する愛着や誇り、そういうシビックプライドも醸成して、関西への定住、そして地域の活性化にこの自転車ツーリズムを使っていき、関西広域連合の中でも今後、それに重点的に取り組むという方向を打ち出していくことが、大事ではないかと思っています。どうかよろしくお願ひしたいと思っています。

以上です。

事務局長（中塚則男） 関西広域連合の方はよろしいですか。

植田副知事。

副委員（植田 浩） 大阪府でございます。担当しております広域産業振興の関係を申します前に、万博の話題が幾つか出ておりますので、少し申し上げたいと思います。

お手元の資料6に2枚付けさせていただいております。A3の方は、先般11月に大阪府の案として国に提案をしたもので、2枚目のA4の方が今後の流れでございます。改めての方も多々いらっしゃると思いますけれども、少し申し上げたいと思います。

現在、誘致に向けて、国において有識者などで構成される検討会が立ち上げられ、立候補申請に向けた検討が行われております。資料の真ん中に記載している国における検討会議ですが、経団連の古賀副会長に会長になっていただき、経済団体、森会長、蔭山代表幹事、大商の尾崎会頭、それから角副会長にもメンバーになっていただいております。加えて行政側としては井戸連合長、大阪府市の知事、市長も含まれております。国の検討会議が行われ、いずれ閣議了解、それからBIE博覧会国際事務局への申請という流れでございます。申請の期限が、パリが立候補した去年の11月から半年後で、平成29年（2017年）5月22日が申請の期限でございます。

資料の下の方にありますように、国家プロジェクトの色々な誘致に向けて、オールジャパン体制の誘致活動を行う官民の組織を作ろうと、2月中の設立を目指して、今、関係者で調整を行っている状況でございます。恐らく1番目にございます平成30年（2018年）の秋にBIE総会で開催地が決定すると言われておりますので、実質2年弱が勝負でございます。是非とも、機運の醸成を含めてご協力をお願いしたいと思っております。

それから、担当の関係で2点申し上げます。まず、大商の倉持副会頭からは「たとえ繁盛大阪アクション」に関連して、それから神戸商工会議所の家次会頭からもございました。ライフサイエンス産業、あるいは健康医療分野におけるアドバンテージの発揮という関連でございます。広域産業局としても大変重要な柱と思っており、医療機器の相談事業を今までやっていたのですが、今年度は大商さんに受託していただい

て実施しており、大変成果を上げております。改めて感謝申し上げたいと思います。

それから、毎年2月に行なっている「メディカル ジャパン」という医療総合展を今年も活用いたします。バイオクラスターのポテンシャルを活用するということで、情報発信あるいは企業とのマッチングなどを行う予定ですので、よろしく願いいたします。それから、この関係では、先ほど申しました万博の誘致も「健康・長寿への挑戦」をテーマにしておりますので、まさに関係あるものだと思っております。

それから、2点目ですが、徳島県商工会議所連合会の中村会長から人材育成、特に事業承継の関係でお話がありました。事業承継は、大変議論になっている案件だと思っております。先ほどご紹介ございましたが、国が各都道府県に事業引継ぎ支援センターを設け、支援施策を展開しておりますけれども、今般、国から府県がリーダーシップを執り、地域に密着した支援機関のネットワークを作るという考え方が提示されたところでございます。まだ12月に公表されたばかりで、十分その内容を咀嚼できているわけではないのですが、各府県が中心になり、こういうことを行うということですので、関西広域連合としてもこれらと歩調を合わせる中で、どういうことができるかを含めて、人材確保等について、引き続き積極的に活動していきたいと思っております。

私からは以上でございます。

副委員（鳥居 聡） 神戸市の副市長の鳥居でございます。いつもお世話になりました。ありがとうございます。私から少しだけ。

当方は、広域防災の副担当をさせていただいております。1.17、今年は22年になりました。犠牲となられた方々に対する追悼の行事をさせていただいたとともに、次世代へこの教訓を引き継いでいく、やはりこれが非常に重要だと思っており、そういうことについても今後、進めてまいりたいと思っております。防災庁については連合長からもお話がございましたが、そのとおりでございます。被災自治体としての経験を、できるだけ色々な各地の被災などに貢献できるような形で進めていければと思ってお

ります。

スポーツの方で少し話題がございました。神戸市はラグビーワールドカップ2019で、東大阪市さんとともに関西の会場になっておりますので、2019年に向けまして、私どもの会場であるノエビアスタジアムの再整備なども努めてまいりたいと思っておりますし、これを通じたスポーツの振興につきましては、家次会頭からも色々とお話ございましたので、商工会議所さんとも一緒にさせていただき、準備委員会なども含めて機運の醸成に努めてまいりたいと思っております。

また、2021年の関西ワールドマスターズゲームズでは、神戸市では陸上競技やバスケットボールなど6競技をさせていただくことになっておりますので、こちらもあわせてスポーツ産業の振興を、是非、神戸市としても努めていきたいと考えているところでございます。

また、家次会頭からミッシングリンク解消の重要性を言っていただきまして、ありがとうございます。皆様のおかげで、大阪湾岸道路の西伸部につきましては今年度から事業着手ができ、本当にありがとうございました。引き続きではございますけれども、これが早期に完成するということが非常に重要だと思っておりますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いしたいと思っております。

あと、付け足しになりますが、今年は神戸港開港150年で、これからいろんなイベントをやらせていただきます。海のフェスタなどもございます。この外、メリケンパークや須磨海岸の再整備にも取り組んでまいります。こちらにつきましても皆様方のご協力、ご支援が必要でございますので、是非ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。私からのコメントとさせていただきます。ありがとうございました。

事務局長（中塚則男） すみません、広域連合側の持ち時間が大幅に超過しており、残り時間が少ないのですが、このあたりで経済界の方からご意見がありましたらいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

関西経済連合会会長（森 詳介） 皆さん方から大変重要な問題、指摘、あるい

はお考えをお聞かせいただきまして、本当にありがとうございます。

私から1点だけ。「KANSAI ONE PASS」について、荒井知事から、「もう少し広範囲に機能をアップさせ、もっと普及するように」というお話がありました。JRさん、それぞれの私鉄の鉄道事業者、それから地下鉄、今まで本当になかなかできなかったことを結び合わせた取り組みで、最初3万枚。6万枚というのは、今年はとりあえず試験的にやってみよう。その結果を踏まえて、本格的なパスに育てていこうというのが今年の実組です。本日も色々な、鳥取の方まで範囲を広げたらなど、幾つかの意見をいただきましたけれども、そういうことも踏まえて、皆さん方と共通に普及させていけるものにしたいと本当に思いますので、是非、またご支援のほどよろしくお願いしたいと思います。

委員（荒井正吾） 1つだけ。東京サミットがあったときに、記者相手に無料のサミットパスを出しました。全鉄道OK。関東は日光から小田原まで、あるいは岬の方まで全部行けるのです。記者やVIPは余り乗らないけれども、今度、ワールドマスタース、まして万博があるときに、そのような広報をする人に、「1週間滞在中、職員に見せるだけでどこでも行けますよ」と無料パスを提供してはどうか。無料パスは印刷代だけでいいんだよね。関西は非常にバラエティーに溢れるから見て帰ってくれというサービス、1つのアイデアです。

事務局長（中塚則男） 他にございませんか。

広域連合長（井戸敏三） 1つだけ。蔭山さんから同友会の連携のお話を頂戴しました。代表して蔭山さんお一人だけ参加していただいておりますが、各地域の同友会とは頻りにそれぞれの地域で意見交換会などされているはずです。神戸の同友会は、毎年研究テーマを作り、研究され、提言を1月に持って来られる。いつも圧力をかけられております（笑）。そのような意味で、同友会においてさらに横の連携をされれば、関西広域連合としても意見交換会なども開催して、ご意見を伺うとことも検討させていただければと思います。メンバーは似ているようで似ていないのですね。個人

の資格で入られているから、意見そのものが非常に大胆です。大胆というのはきれいな言葉ですけども、実現可能性はともかく、提言することが重要だというような意味での大胆さもございますから、大変面白い意見交換会になるのではないかと期待できるとしております。付け加えさせていただきました。

京都商工会議所（立石義雄） 北陸新幹線につきましては、結果的には北陸3県の行政、経済界の要望が通り、小浜・京都のルートが決まりました。今朝の日経新聞に小さな記事で、記憶が不確かではございますが、北陸の経済連合会が大阪までの完成時期を2030年として要望等に取り組む方針を発表したという記事がございました。国の計画では2046年に完成する計画になっておりますが、その半減、短縮化を図るために要望していこうという記事であったと思います。関西と北陸がひとつになった場合には、非常に強い要望活動になると思いますので、少しご検討いただきたいと思います。

以上でございます。

事務局長（中塚則男） ありがとうございます。他にございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、予定しておりました時間がまいりましたので、最後に連合長と森会長から一言ずつコメントをお願いしたいと思います。

最初に井戸連合長、よろしく申し上げます。

広域連合長（井戸敏三） 大変活発なご議論、意見交換をさせていただき、ありがとうございます。私の冒頭挨拶にもございましたように、関西が抱えている課題を皆様との意見交換の中で共通理解できたのではないかと思います。そして、ご意見を伺っている限りでは、ベクトルはほとんど一致しているのではないかと思いますので、そのような意味でまさに立石会頭がおっしゃったように、北陸新幹線のような大きな地域課題、スクラムをきちんと組ませていただいて、推進を図っていくということとは非常に重要だと思っております。

北陸は少し気楽に言われ過ぎているところがないわけではないのですが、応援団だ  
というように理解をさせていただき、我々自身が主体的に動いていかななくてはいけな  
いのではないかと。そういう課題が多々ありますので、是非、よろしくお願い申し上げ  
て、今回の締めくくりさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいた  
します。

事務局長（中塚則男） 森会長、よろしくお願いします。

関西経済連合会会長（森 詳介） 本日は本当にお忙しいところ、我々とのよ  
うに意見交換の場を持っていただきまして、ありがとうございました。非常に有意義  
な意見交換ができたと思います。

私も井戸連合長と同様に、問題認識、それに対する我々の考えというのは、非常に  
方向性は合っていると思うのですが、今日の議論の中で、さらに個別にもう少し突っ  
込んで議論した方がいいのではないかと課題も散見されたように思います。とい  
うことで、事務局にはご苦勞をかけるのですが、是非、今日の議論を整理していただ  
いて、このような課題についてもう少し事務レベル、あるいはそれぞれの課題につい  
て検討を行い、さらに共通認識を高めるといふか、議論するようなことも今後考えて  
いただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

事務局長（中塚則男） ありがとうございました。

それでは、これをもちまして意見交換会を終わらせていただきます。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

閉会 午後 2 時 4 0 分